

5. 宛先管理

5. 宛先管理

5.1 宛先管理の概要

宛先管理は、処理結果電文の出力パターンと処理方式(インタラクティブ、メール、WebNACCS)の組み合わせに対応した宛先管理テーブルを使用し、入力端末、利用者コード、出力情報コードごとに指定した宛先に応じて、処理結果電文を帳票電文テーブルに格納する機能である。

NACCSでは、処理結果電文の出力パターンとして、INQ型、EXZ型及びEXC型の3種類がある。これらのパターンを宛管形式という。

通関業者が「輸入申告業務 (I D C)」を行ったときの3種類の出力パターンの例を、図 5-1-1 に示す。また、図 5-1-2 に、宛先管理処理の概要図を示す。

(注) WebNACCS処理方式については、インタラクティブ処理方式とメール処理方式に対してEXC型帳票のみ出力することができる。

WebNACCS処理方式のみを利用する利用者が出力情報電文(帳票用)を出力・印刷する際の方法については、「WebNACCS操作説明書」を参照すること。

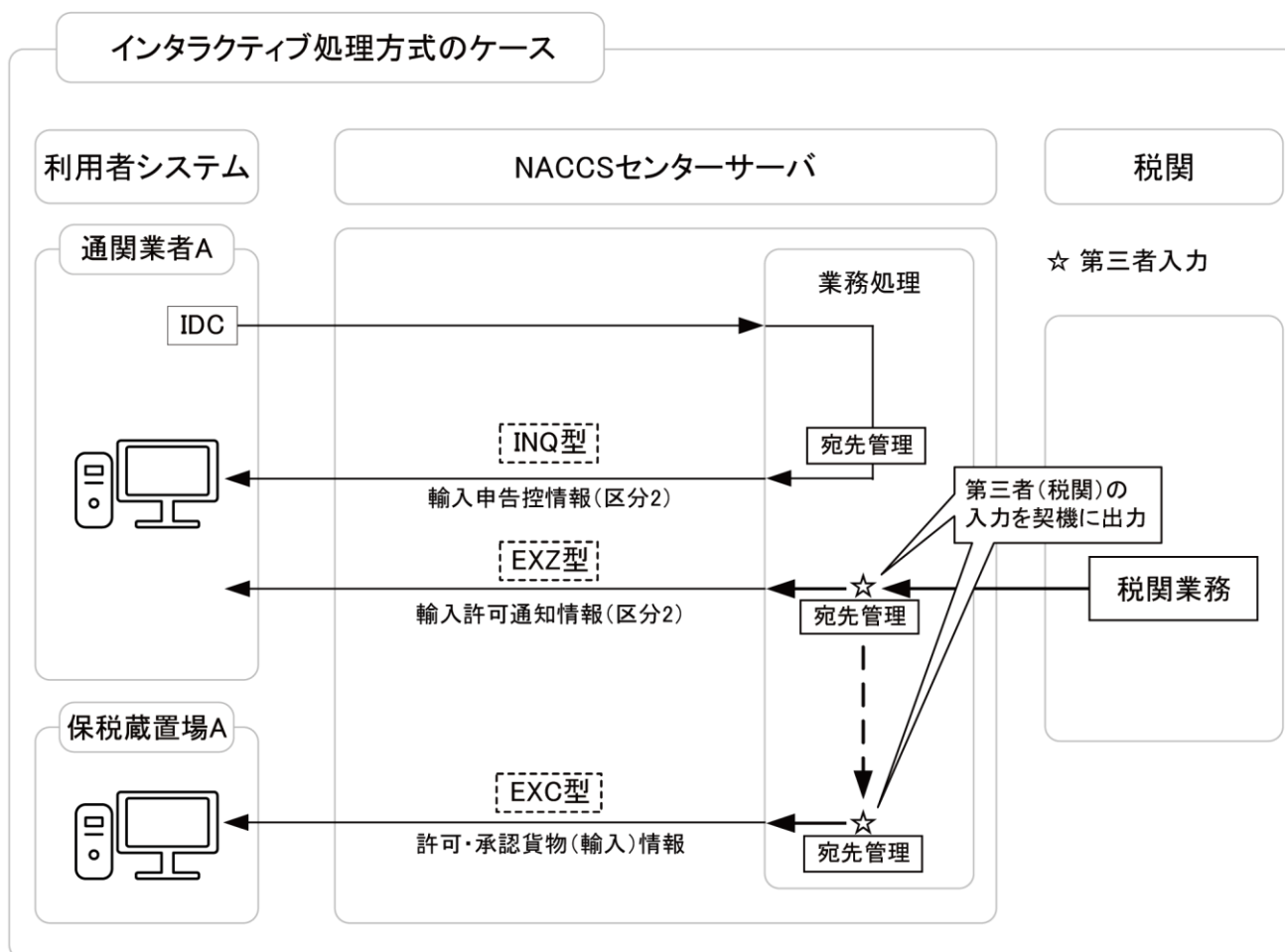


図 5-1-1 処理結果電文の出力パターンの例

- INQ型：処理結果電文（輸入申告控情報）が、処理要求電文の入力者宛（通関業者Aの利用者コンピュータ）に、直ちに出力される。
- EXZ型：処理結果電文（輸入許可通知情報）が、処理要求電文の入力者宛（通関業者Aの利用者コンピュータ）に、第三者の入力（税関の審査終了業務）を契機に出力される。
- EXC型：処理結果電文（許可・承認貨物（輸入）情報）が、処理要求電文の入力者（通関業者A）と異なる利用者宛（保税蔵置場Aの利用者コンピュータ）に、第三者の入力（税関の審査終了業務）を契機に出力される。

(注1) 利用者コンピュータとは、以下を指す。

- ・接続方式がルータ接続の場合は「パソコン(論理端末名単位)」
- ・接続方式がゲートウェイ接続(SMTP 双方向)の場合は「利用者側 SMTP サーバ(メールアドレス単位)」
- ・接続方式がゲートウェイ接続(netAPI)の場合は「利用者側 netAPI サーバ(論理端末名単位)」

(注2) メール処理方式の場合、「利用者コンピュータ」を全て「受信用メールボックス」と読み替える。

